

家計相談事例から考える 金融経済教育と金融商品

2019年5月15日

フォスター・フォーラム サロン

坂本綾子

3、増え得ている相談事例

これまでのモデルケースを外れた相談

- ・離婚後のキャッシュフロー表の作成
(子どもを連れて離婚を希望、妻の側)

- ・40代のシングルの家計管理

- ・外貨建て資産の持ち方 (海外勤務の経験者)

- ・未婚、離婚、死別、子どもの有りなし、男女を問わずシングルからの相談⇒老後への不安

- ・外貨建て保険へのセカンドオピニオン

4、アドバイスの例

- 老後への不安
 - * 公的年金の仕組み説明、DC、iDeCoの活用
 - * CF表での収支予測
- 外貨建て保険
 - * 手数料
 - * 外貨建てでの受取額が決まっているもの
 - ⇒ 損益分岐点の為替レートを示す
 - * 外貨建てでも変動するもの
 - ⇒ 投資信託との比較

5、預金と投資信託の間に深い溝

- 投資信託の手前に、外貨建て保険がある

保険の商品性を批判するよりも

- 伝統的な投資先「株式と債券」の再確認
- 国際分散投資の適切な方法

- 合理的な説明だけでは伝わらない
- 繰り返し、数字で説明する（CF表は効果大）
- 腑に落ちる、心に響く説明方法の模索

6、社会人に必要な金融経済教育の分野

- 為替変動の金融商品への影響⇒計算例等を入れて具体的に
- 金融商品の手数料⇒元本に対する率を比較する
- 資産の価格変動⇒相対的なもの